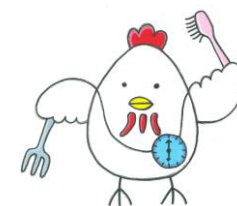


第2回学校関係者評価委員会

(学校評価・後期 今年度の結果及び考察)



令和6年2月27日(火)14:30(於:校長室)

八幡浜市立川之石小学校

第2回学校関係者評価委員会

令和6年2月27日

川之石小学校

Ⅰ 学校長挨拶

2 議 題

(1) 学校より

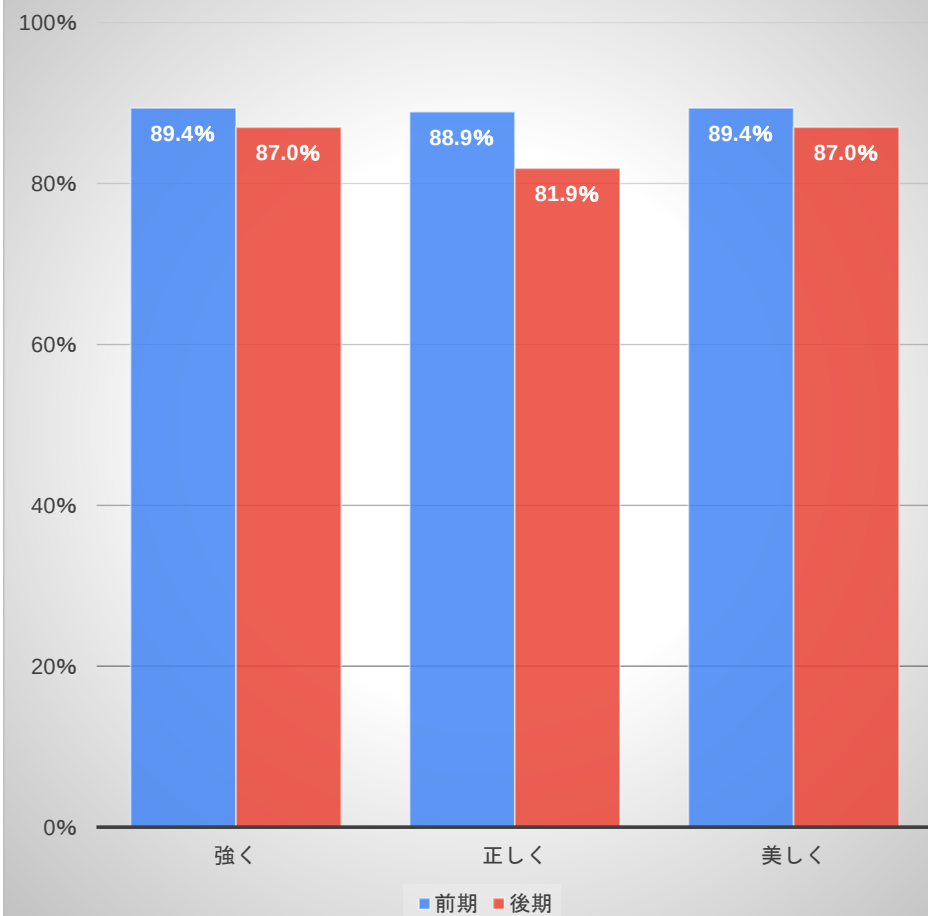
○ 今年度及び後期の取組について

※ アンケート評価結果の考察(別紙資料参照)

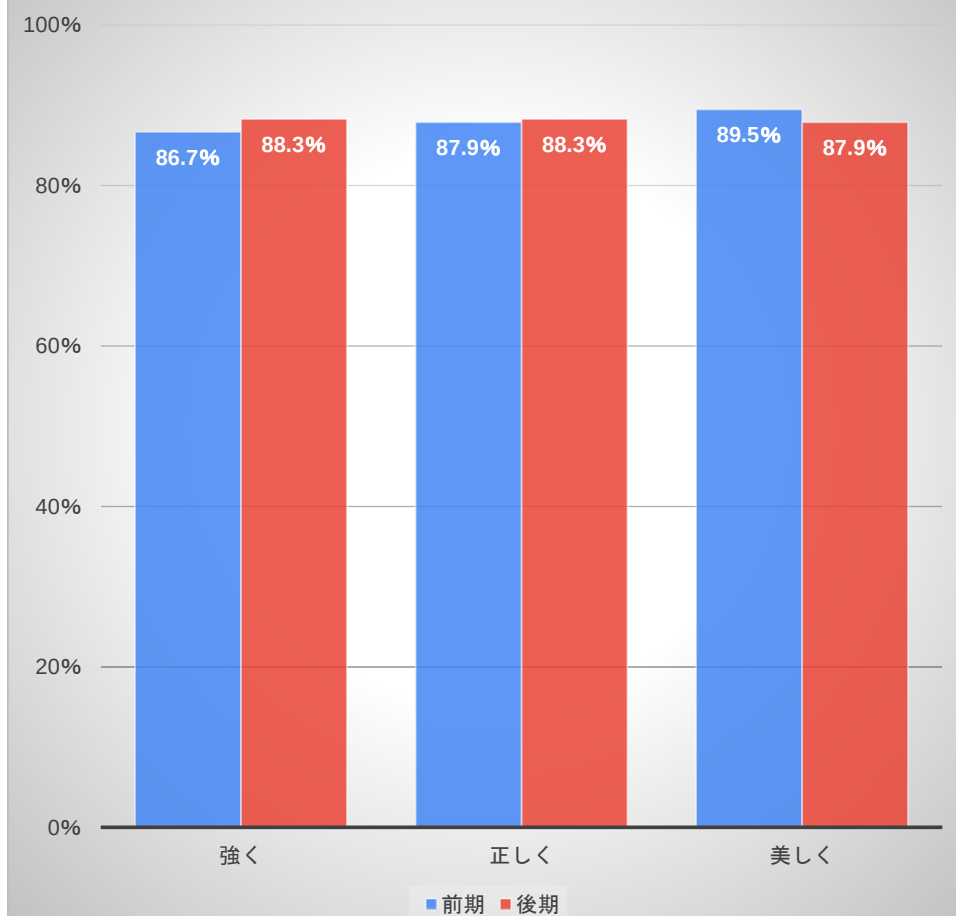
(2) 質疑・意見交換

(3) その他

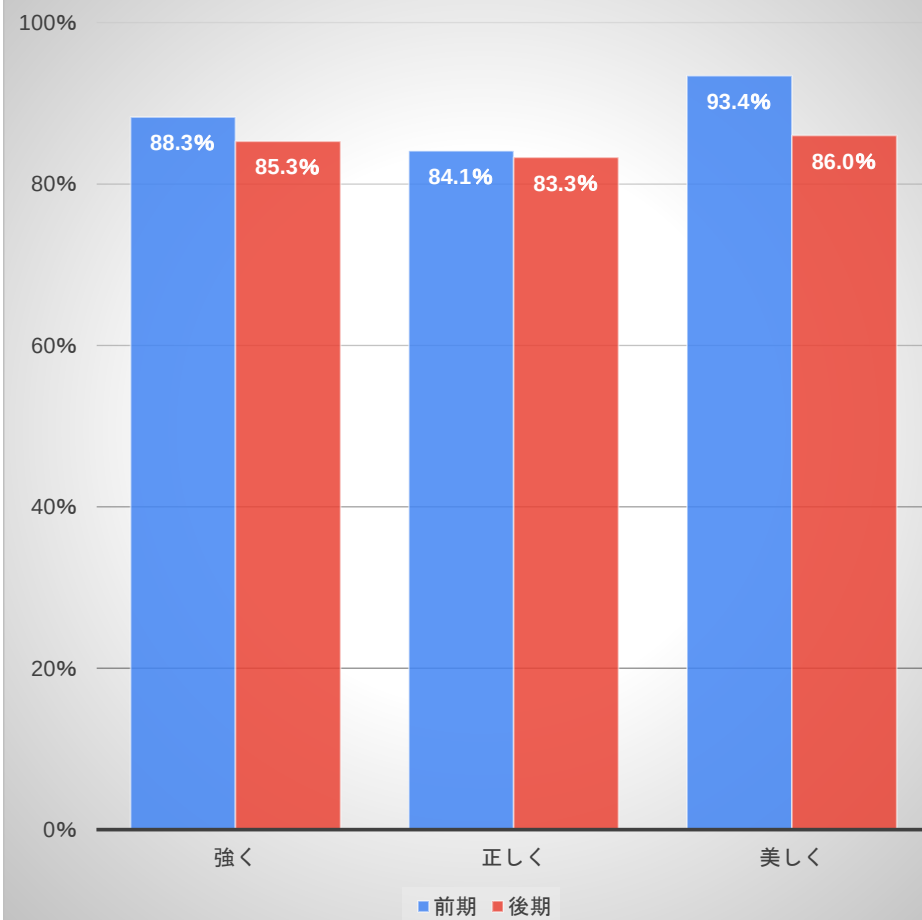
1 年生



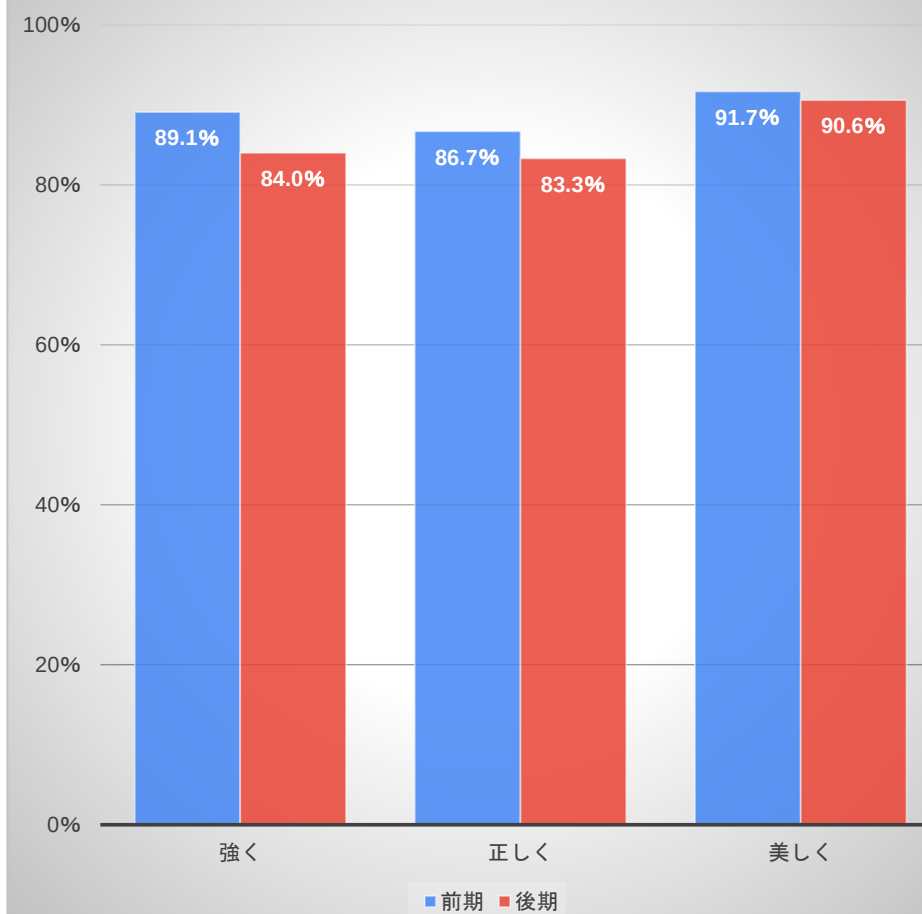
2 年生



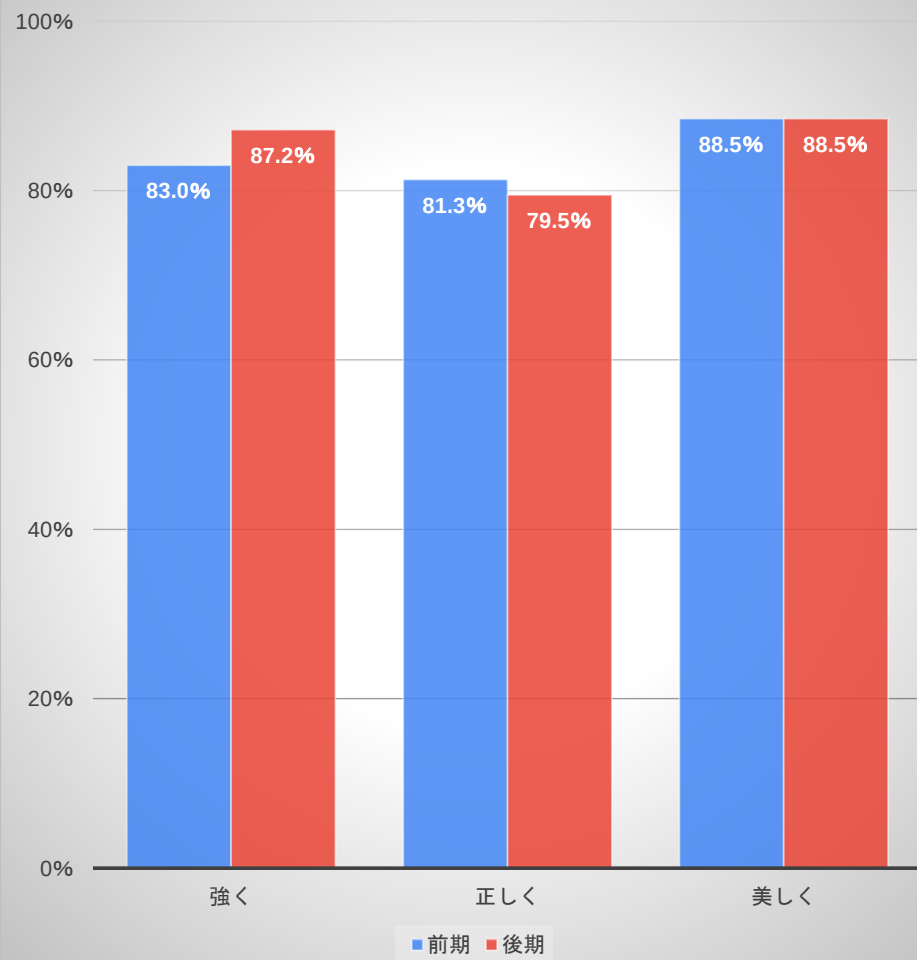
3 年生



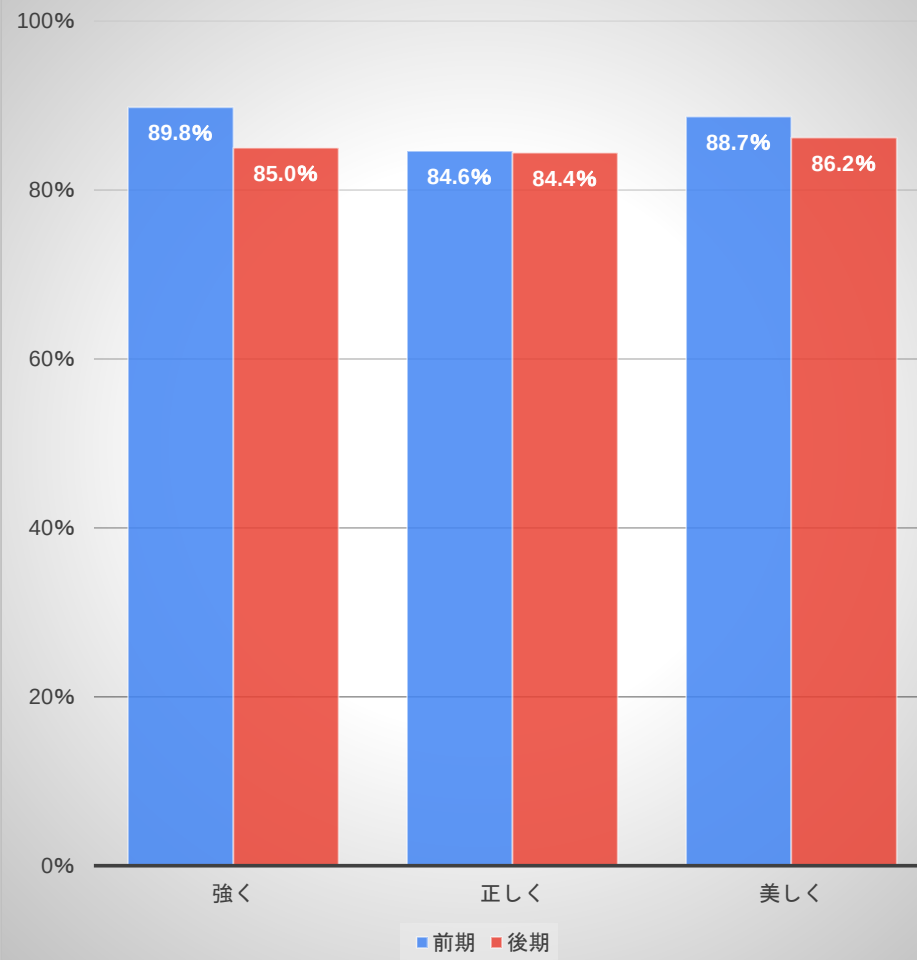
4 年生



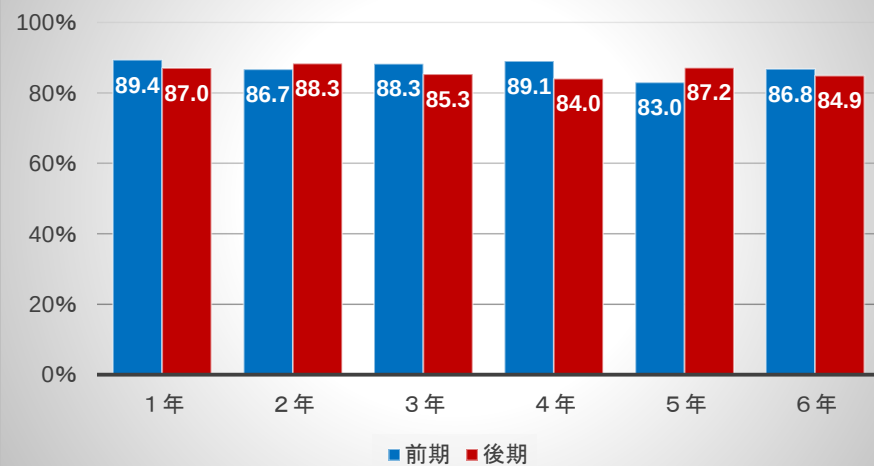
5 年生



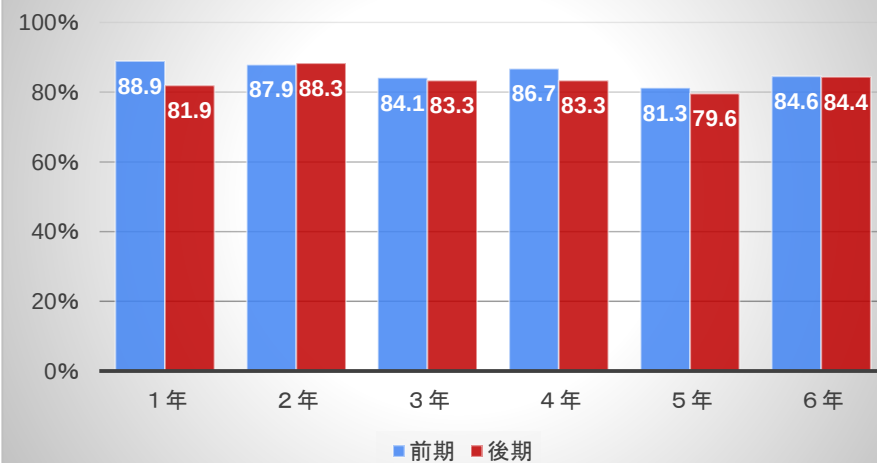
6 年生



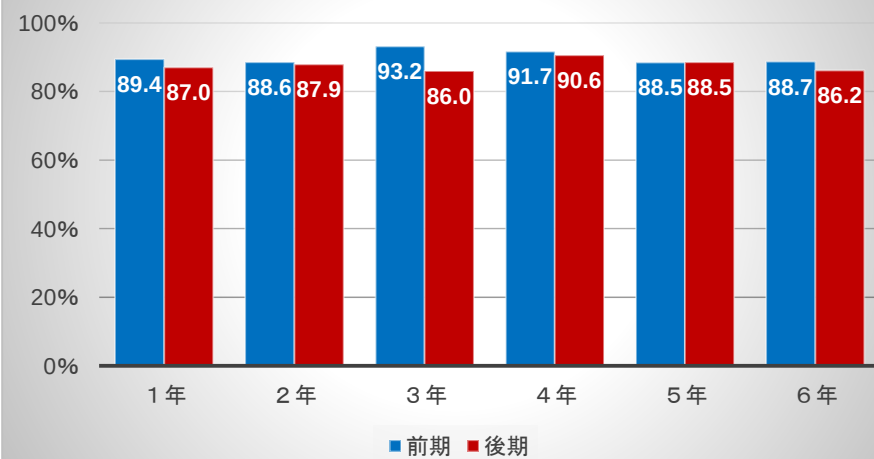
校訓「強く」到達度



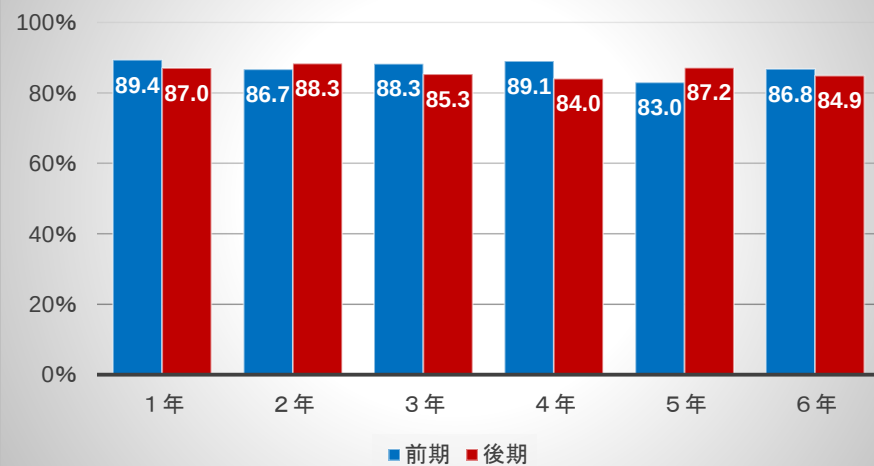
校訓「正しく」到達度



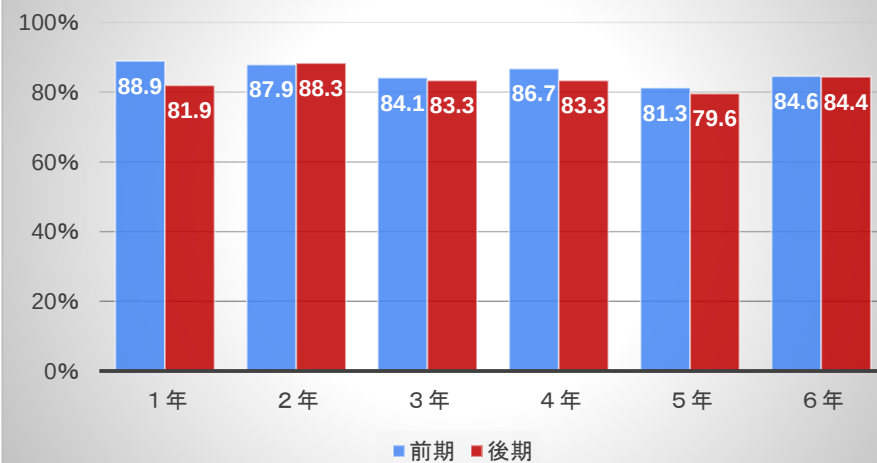
校訓「美しく」到達度



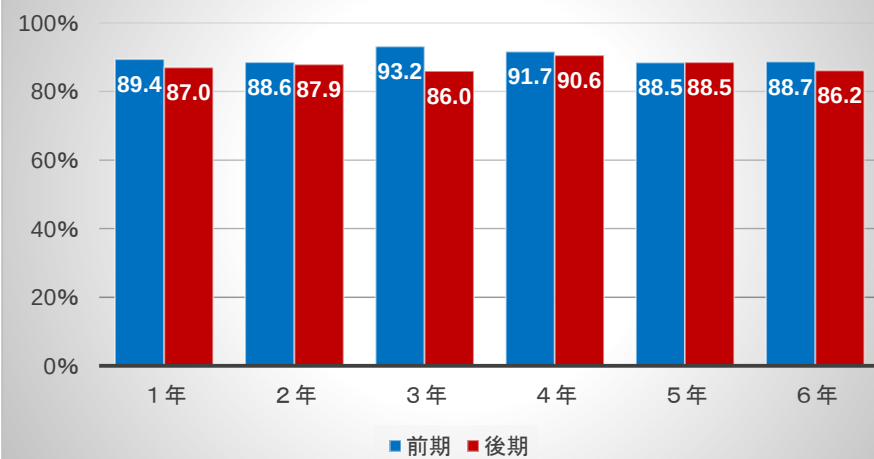
校訓「強く」到達度



校訓「正しく」到達度



校訓「美しく」到達度



R5 学校評価・前期・後期（設問項目ごと）

校 訓	対 象	設問項目	前 期			後 期		
			平 均	到達度		平 均	到達度	
【強く】	保護者 (／4)	1 お子さんは、よい生活習慣が身に付いている。	2.97	74.25%	79.61%	3.02	75.50%	80.14%
		2 お子さんは、よい食習慣が身に付いている。	2.93	73.25%		3.02	75.50%	
		3 お子さんは、外で遊んだり、課外活動の体力づくりに取り組んだりしている。	3.38	84.50%		3.21	80.25%	
		4 お子さんは、自分で健康や安全に気を付けている。	3.03	75.75%		3.11	77.75%	
		5 お子さんは、学校の活動や行事に進んで取り組んでいる。	3.39	84.75%		3.48	87.00%	
		6 お子さんは、何事も最後まで諦めないで取り組んでいる。	3.17	79.25%		3.18	79.50%	
		7 学校は、子どもの健康・安全を大切にし、安心な環境づくりに努めている。	3.42	85.50%		3.42	85.50%	
	教職員 (／4)	1 よい生活習慣が身に付くように指導した。	3.54	88.50%	82.71%	3.79	94.75%	87.25%
		2 よい食習慣が身に付くように指導した。	3.31	82.75%		3.57	89.25%	
		3 外遊び・課外活動の体力づくりへの指導を行った。	3.31	82.75%		3.36	84.00%	
		4 児童は、健康安全に関する意識や態度が向上した。	3.08	77.00%		3.21	80.25%	
		5 児童に学校の活動や行事に進んで取り組むよう指導した。	3.46	86.50%		3.79	94.75%	
		6 児童は、何事も最後まで諦めない意識や態度が向上している。	2.92	73.00%		3.07	76.75%	
		7 安全・安心な学校環境づくりに取り組むことができた。	3.54	88.50%		3.64	91.00%	
	児童 (／4)	1 早ね・早おきがまもれた。	3.27	81.75%	87.25%	3.18	79.50%	85.96%
		2 すききらいなくなんでも食べた。	3.21	80.25%		3.26	81.50%	
		3 外で元気(げんき)よくあそんだ。	3.63	90.75%		3.53	88.25%	
		4 自分からすすんで健康(けんこう)や安全(あんぜん)に気がつけた。	3.52	88.00%		3.47	86.75%	
		5 はりきって学校の活動(かつどう)にとりくんだ。	3.63	90.75%		3.64	91.00%	
		6 どんなこともあきらめずに最後(さいご)までがんばった。	3.68	92.00%		3.55	88.75%	

保護者アンケート考察

○ 到達度ほぼがプラスになっており、家庭での意識的な関わりによって到達度がアップしたと思われる。設問3「お子さんは、外で遊んだり、課外活動の体力づくりに取り組んだりしている。」についての到達度は80.3%とダウンしているが、昨年度の74.7%と比較すると大幅にアップしている。コロナの5類引き下げにより、学校生活が元に戻ってきたことも要因の一つであるが、子どもたちの心身の成長を促すために必要な生活環境が改善されている。● 子どもの体力向上には、保護者の関わりが必要である。今年度も、体育主任が家庭向けの体づくりに関する通信を発行した。今後も家庭との連携を深め、体力の向上につながる取組を継続していきたい。

教職員アンケート考察

○ 全体的に前期より約5%プラスとなっている。設問1「よい生活習慣が見に付くように指導した。」設問5「学校の活動や行事に進んで取り組むよう指導した。」については94.8%の到達度となっている。その他の設問においても、達成度がアップしており、教職員の取組がある程度の成果として実感できている。● ただし、教職員の取組が児童の到達度に反映されていないものもある。今年度を振り返り、更なる改善に努めていきたい。

児童アンケート考察

○ 前期の到達度と比較すると、約1.3%ダウンとなったが、設問2「好き嫌いなく何でも食べた。」設問5「張り切って学校の活動に取り組んだ。」など、到達度がアップした項目もあり、概ね良好である。● 前期アンケートでも、保護者、教職員の共通課題であった「何事にも諦めない意識や態度の育成」については、到達度が若干良くなっているものの、児童の結果（前期92%→後期88.8%）から見ても、改善策を講じなければならない。来年度の教育課程や課外活動を工夫しながら教育活動を展開していくとともに、家庭との連携をさらに深め、課題解決を図りたい。

R5 学校評価・前期・後期（設問項目ごと）

R5 学校評価・前期・後期（設問項目ごと）			前 期			後 期		
校 訓	対 象	設問項目	平 均	到達度		平 均	到達度	
【正しく】	保護者 （／4）	8 お子さんは、よい学習習慣が身に付いている。	2.97	74.25%	79.79%	3.02	75.50%	80.29%
		9 お子さんは、きちんと話を聞く態度が身に付いている。	3.01	75.25%		3.11	77.75%	
		10 お子さんは、学習したことを生かそうする様子が見られる。	2.97	74.25%		3.16	79.00%	
		11 お子さんは、自分を表現する力が身に付いている。	3.03	75.75%		3.16	79.00%	
		12 お子さんは、授業に前向きに取り組んでいる。	3.29	82.25%		3.23	80.75%	
		13 学校の教職員は、子ども一人一人にしっかりと目を向けている。	3.56	89.00%		3.40	85.00%	
	14 学校の教職員は、子どもたちがよく分かる授業づくりに努めている。	3.51	87.75%		3.40	85.00%		
	教職員 （／4）	8 よい学習習慣が身に付くように指導した。	3.31	82.75%	76.93%	3.79	94.75%	80.36%
		9 児童は、話を聞く意識や態度が向上している。	3.00	75.00%		3.14	78.50%	
		10 児童は、学習したことを活用する意識や態度が向上している。	2.92	73.00%		3.00	75.00%	
		11 児童は、表現する意識や態度が向上している。	2.77	69.25%		3.00	75.00%	
		12 児童は、前向きに授業に臨む意識や態度が向上している。	3.23	80.75%		3.21	80.25%	
		13 個に応じた学習指導をした。	3.23	80.75%		3.29	82.25%	
	14 学習内容を児童がよく理解している。	3.08	77.00%		3.07	76.75%		
	児童 （／4）	7 学習（がくしゅう）のきまりをきちんとまもっている。	3.52	88.00%	85.33%	3.49	87.25%	83.46%
		8 先生や友だちの話をきちんと考え（かんがえ）ながら聞いている。	3.58	89.50%		3.42	85.50%	
		9 習った（ならった）ことをつかって新しい（あたらしい）ことを学習（がくしゅう）している。	3.48	87.00%		3.42	85.50%	
		10 自分の考え（かんがえ）をすすんで発表（はっぴょう）している。	3.25	81.25%		3.18	79.50%	
11 どの授業（じゅぎょう）も楽しみ（たのしみ）にしている。		3.33	83.25%	3.22		80.50%		
12 授業（じゅぎょう）がよくわかる。		3.32	83.00%	3.30		82.50%		

保護者アンケート考察

○ 設問8～11については、到達度が前期よりもプラスに転じている。設問11の「自己表現力の向上」は本校の研究課題の一つとして取り組んできた点でもあり、わずかながらでも改善された様子が保護者に伝わったことは収穫である。● 一方で、設問12～14は到達度がダウンしている。これら3つの設問は、昨年度も後期の到達度が減少傾向にあった。今年度は、ICT(タブレット端末等)を利用した新しい学習スタイルにも意欲的に取り組んでいる。設問12(授業への取組)、設問14(よく分かる授業づくり)に関する学校からの情報発信を工夫するなど、保護者に学校の取組を知っていただくよう心掛けていきたい。

教職員アンケート考察

○ 全体的に約4%ほど、到達度がアップしている。設問8「よい学習習慣が身に付くように指導した。」は94.8%、設問13「個に応じた学習指導をした。」は82.3%の到達度となり前期よりアップしている。特に後期は、放課後等を活用し、個別学習を充実させるなど、学習指導に力を入れて取り組んだ結果が表われている。● 設問14「学習内容を児童が理解している。」は達成度が若干ダウンしており、教職員が指導の成果を実感できていない傾向にある。今後も粘り強く関わり続け、学習指導に当たりたい。

児童アンケート考察

■ 各設問において後期の到達度が低下しているが、前期の自己評価が高かったことから考えると、妥当な数値と思われる。中でも、設問10「自分の考えを進んで発表している。」の低下については、高学年で取り組んでいる新しい学習スタイル（共有化の場面で発言をせずに互いの考えを知る。）の影響が考えられる。● ただし、設問12「授業がよく分かる。」などは、教職員の結果ともリンクしており到達度が低下している。児童の学習意欲を喚起する学習展開や個々の理解度を把握して、対応できる方策を考えていきたい。

R5 学校評価・前期・後期（設問項目ごと）

R5 学校評価・前期・後期（設問項目ごと）			前 期		後 期			
校 訓	対 象	設問項目	平 均	到達度	平 均	到達度		
【美しく】	保護者 （／4）	15 お子さんは、自分に自信を持ち、自分を大切にしている気持ちや態度が育っている。	3.17	79.25%	79.07%	3.14	78.50%	78.32%
		16 お子さんは、他人を認め、大切にしようとする気持ちや態度が育っている。	3.32	83.00%		3.39	84.75%	
		17 お子さんは、決まりを大切にし、守ろうとする気持ちや態度が育っている。	3.31	82.75%		3.21	80.25%	
		18 お子さんは、心のこもった挨拶や正しい言葉遣いができている。	3.14	78.50%		3.11	77.75%	
		19 お子さんは、自分に対する厳しい気持ちや態度が育っている。	2.61	65.25%		2.65	66.25%	
		20 子どもの健全育成に向けて、学校と家庭は連携している。	3.28	82.00%		3.21	80.25%	
		21 教職員は、いじめのない学校づくりに努めている。	3.31	82.75%		3.22	80.50%	
	教職員 （／4）	15 児童は、自分に自信を持ち、自分を大切にしている意識・態度が向上している。	3.08	77.00%	81.53%	3.07	76.75%	82.13%
		16 児童は、他人を認め、大切にしようとする意識・態度が向上している。	3.08	77.00%		3.21	80.25%	
		17 決まりを守る意識・態度が向上するように指導をした。	3.39	84.75%		3.50	87.50%	
		18 挨拶・言葉遣いが正しく身に付くように指導した。	3.46	86.50%		3.43	85.75%	
		19 児童は、自分に対する厳しい意識・態度が向上している。	2.69	67.25%		2.71	67.75%	
		20 児童の健全育成のため、家庭と連携して取り組むことができた。	3.23	80.75%		3.29	82.25%	
		21 学校の教育目標を意識しながら教育活動を展開することができた。	3.54	88.50%		3.43	85.75%	
		22 いじめのない学校(学級)づくりに取り組むことができた。	3.62	90.50%		3.64	91.00%	
	児童 （／4）	13 自分は、いろいろなことができるようになった。	3.69	92.25%	90.25%	3.55	88.75%	88.92%
		14 まわりの人も、いろいろなことができるようになった。	3.68	92.00%		3.68	92.00%	
		15 きめられたことはなんでもきちんと守った(まもった)。	3.58	89.50%		3.54	88.50%	
		16 自分が「かがやく」こと(よいところ)をのぼすことができた。	3.56	89.00%		3.51	87.75%	
		17 正しいことばづかいやあいさつができる。	3.56	89.00%		3.57	89.25%	
		18 まちがったことをしたら、正直(しょうじき)に言ったり、あやまったりできる。	3.59	89.75%		3.49	87.25%	
	保護者アンケート考察 ○ 前期とほぼ同じ到達度となった。設問19「お子さんは、自分に対する厳しい気持ちや態度が育っている。」については、前期の課題として取り上げた。後期は、市陸上運動記録会や校内持久走記録会の練習などを中心に心身の成長を促し、改善を図った結果、到達度は若干のプラスとなった。また、活動後の児童が書いたワークシートや日記の感想には、達成度だけでは分からない成長の跡が感じられるものが多くあった。● 各設問の到達度を見ると、低下傾向にある。設問20(学校と家庭の連携)、設問21(いじめのない学校づくり)などは、結果だけを捉えて一喜一憂することのないよう、地道な取組(電話連絡、校報など)を継続して行い、連携を深めていきたい。							
	教職員アンケート考察 ○ 児童の健全育成を目的とした取組を充実させたことにより、到達度が全体的にアップしたと考えられる。特に、設問17(規範意識・87.5%)、22(いじめ・91%)などは高い達成度を示しており、前期の結果を受け止め、指導に当たってきた成果でもある。● ただし、設問21(教育目標への意識))については、児童の到達度と同様に前期よりダウンという結果が出ており、設問19(子どもが自身に対する厳しい意識・態度)については、前期とほぼ変わらない低い数値を示している。保護者の回答も、同様の設問に対する到達度が少し低い数値であった。今後の取組として、学校では、児童を支援する場面と指導する場面を区別して行い、児童が自ら挑戦し、達成感を味わうことのできる機会を充実させたい。また、家庭には、愛情のある厳しさを持って子どもに接するなど、関わり方の工夫を提案していきたい。							
	児童アンケート考察 ○ 全体的に達成率は低下しているものの、前期と同様に高い達成度である。昨年度は「美しく」の全体到達度が82.7%であったことから考えると、各学年での人間関係が良好であると思われる。特に、設問14「まわりの人も、なんでもできてすごいと思う。」は92%と非常に高く、今年度のいじめの認知件数「ゼロ」にも反映されている。● 今年度も大きな事件、事故なく終えようとしているが、「自分の命は自分で守る」ことができる川小の子どもを育てるため、教職員の協同体制をさらに充実させたい。							

R5 学校評価・前期・後期（設問項目ごと）

			前 期		後 期	
校 訓	対 象	設問項目	平 均	到達度	平 均	到達度
ほか	保護者 (／4)	22 お子さんは、学校に行くのが楽しいと感じている。	3.39	84.75%	3.23	80.75%
		23 保護者は学校に行きやすい。	3.35	83.75%	3.15	78.75%
		24 子どもを育てることにに関して、学校・家庭・地域が役割分担している。	3.36	84.00%	3.11	77.75%
	教職員 (／4)	23 学校・家庭・地域が役割分担して子どもたちを育てている。	3.00	75.00%	3.07	76.75%
		24 学校は、業務改善が進んでいる。	3.00	75.00%	3.29	82.25%
		25 教育活動全般(校務など)必要に応じて、共同体制がとれている。	3.46	86.50%	3.57	89.25%
		26 業務に対してやりがいや充実感を感じている。	3.16	79.00%	3.29	82.25%
	児童 (／4)	19 学校のことや自分のこと、おうちのことなどで気になることがある。	1.93	48.25%	1.51	37.75%

その他アンケート考察

○ 教職員は全ての設問において、前期を上回る到達度となった。今年度は、昨年度以上に教職員間の共同体制がとれており、業務に対してのやりがい、充実感がアップしている。今後もチーム学校としての体制を整えつつ、本当に必要な教育活動を見極めながら、子どもたちにより良い教育を行っていききたい。● 保護者の設問22～24については前期を下回っている。今年度の振り返り、反省を生かした取組を通して、家庭、地域との連携を構築していききたい。○ 児童の設問19については、約11%の減少となった。これは、学校での児童理解を含めた様々な取組により、良い兆しである。いじめの認知件数は「ゼロ」であっても、子どものトラブルは毎日のように起きている。また、悩みを抱えている児童も皆無ではない。今後も、教職員間の連携を密にし、家庭、地域と協力しながら川小の子を育てていきたい。

R5 学校評価・前期・後期（設問項目ごと）

			前 期		後 期	
校 訓	対 象	設問項目	平 均	到達度	平 均	到達度
ほか	保護者 (／4)	22 お子さんは、学校に行くのが楽しいと感じている。	3.39	84.75%	3.23	80.75%
		23 保護者は学校に行きやすい。	3.35	83.75%	3.15	78.75%
		24 子どもを育てることにに関して、学校・家庭・地域が役割分担している。	3.36	84.00%	3.11	77.75%
	教職員 (／4)	23 学校・家庭・地域が役割分担して子どもたちを育てている。	3.00	75.00%	3.07	76.75%
		24 学校は、業務改善が進んでいる。	3.00	75.00%	3.29	82.25%
		25 教育活動全般(校務など)必要に応じて、共同体制がとれている。	3.46	86.50%	3.57	89.25%
		26 業務に対してやりがいや充実感を感じている。	3.16	79.00%	3.29	82.25%
	児童 (／4)	19 学校のことや自分のこと、おうちのことなどで気になることがある。	1.93	48.25%	1.51	37.75%

その他アンケート考察

○ 教職員は全ての設問において、前期を上回る到達度となった。今年度は、昨年度以上に教職員間の共同体制がとれており、業務に対してのやりがい、充実感がアップしている。今後もチーム学校としての体制を整えつつ、本当に必要な教育活動を見極めながら、子どもたちにより良い教育を行っていききたい。● 保護者の設問22～24については前期を下回っている。今年度の振り返り、反省を生かした取組を通して、家庭、地域との連携を構築していきたい。○ 児童の設問19については、約11%の減少となった。これは、学校での児童理解を含めた様々な取組により、良い兆しである。いじめの認知件数は「ゼロ」であっても、子どものトラブルは毎日のように起きている。また、悩みを抱えている児童も皆無ではない。今後も、教職員間の連携を密にし、家庭、地域と協力しながら川小の子を育てていきたい。

学校評価・後期 （記述回答内容）

【保護者】

- ・ 学校に楽しく登校できています。ありがとうございます。小学校生活もあと少しとなりました。御指導よろしくお願いします。

⇒ 前期に引き続き、大変うれしいお言葉をいただきありがとうございました。卒業する最後の日まで、子どもたちの成長を願い、全職員が一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

- ・ やる気アップ習慣のポイント制をもう少し考えてもらいたい。制限があると親子ともども精神的にしんどい。

⇒ やる気アップ習慣の取組に御協力いただきありがとうございます。この取組に関しましては、必要に応じて内容の変更等を行っております。いただいた御意見を参考にして、来年度は改善した取組にしていきたいと思ひます。様々な面でお手数をおかけしますが、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

メモ

第2回学校評価委員会記録

1 学校長挨拶

- ・ 本日はお集まりいただき大変ありがたい。現在のところ大きな問題もなく活動できているが、不安要素がないわけではない。今後も子どもたちがすくすくと成長できるよう力を尽くしたい。ぜひ、忌憚のない御意見をいただきたい。
 - ・ 今年度及び後期の取組について
- ※ アンケート評価結果の考察、説明（別紙資料）

2 質疑・意見交換

- ・ 評価の説明で、児童の達成度が低下しているとあったが、細かい項目の結果を見ると、子どもたち意欲が感じられる結果が出ていると思う。

○ 昨日、地震があったが子どもたちの様子はどうだったのだろうか。地震の後、下校する児童の声が安心したのだが。

⇒ 各担任に確認したところ、地震発生時、学校にいた児童は避難行動をとることができたようである。本校にも対応マニュアルがあり、その内容を児童にも話したことがある。しかし、下校時の避難訓練は実施できていない。今後の課題としたい。

- ・ 他の地域では、児童の無事を知らせるメールが回ったとの話を聞いた。働いている親にも知らせてもらえるとよい。
- ・ 地域に子どもが住んでいないので、あまり状況は分からないが、先日、横断歩道を渡った後、とても丁寧にお辞儀をした児童がいた。中学生もきちんとお礼ができている。
- ・ 10歳式の様子を見させてもらったが、とても感動した。将来の夢も多岐にわたり、感心した。心が育っている。ありがとうの言葉にも心がこもっていた。
- ・ 川之石小、保内中の子どもたちは、とても温かい。「だんだん」でも小さい子の相手を進んでしている。
- ・ 挨拶がきちんとできている。土、日曜日に利用する子どもたちもきちんと挨拶している。

○ 地域の方から見て、子どもたちの交通安全についてはどうか。

⇒ 信号を見て、横断歩道は自転車を押している。マナーもきちんと守っている。

- ・ 駐在所から、登下校のパトロールを実施しているとの情報が入った。川之石地区は今のところ安定している。校外生活も落ち着いているとのことだった。